

# 高退協ニュース

高知高退協  
事務局  
1998・1・1  
No.90

高知県高等学校退職教職員協議会  
高知市丸の内二丁目一〇番八  
TEL 088-811-6822  
振替口座 徳島 511-11893

新しい年を迎えて

坪井 幹之

明けましておめでとうございます。お陰様で、昨年は年頭の挨拶にもふれましたネパールヒマラヤのトレッキングなど、充実した一年を送らせてもらいました。あらためて御礼申し上げます。

さて、今年も参議選の年です。

「国民いじめ、戦争準備」の悪政を転換する第一歩として、高退協事務局もこのたたかいを重視してとりくむ決意です。西岡必勝をめざす会員みなさんのご協力を切に願います。

二十一世紀も間近です。私たち年寄りの社会的役割はますます大きくなりつつあります。今年も、日々健やかで楽しく励ましあって頑張りましょう。

(一九九八・一・一)

## 新春俳句

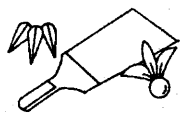
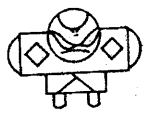
合 田 青 幹  
初みくじの中とはよかるべし

田 所 たねを  
教へ子の酒の輪にふる三日かな

吉 本 伸 秋  
手水舎の四手にこぼるる初日の斑

中 内 みち代  
鐘一打鐘一打年改る

小笠原 さちを  
本殿に日の通しや初社



## 望年会47名参加で大盛会

12月5日恒例の望年会には、47名の参加者を迎え、池上氏の新しい手品、井上氏の一段と練られたしぼてん踊りで和やかに交流が進み、最後は「団結がんばろう」と意気高く納めました。

## 高教組へ 17万余のカンパ

第二の勤評闘争と位置づけた高教組のたたかいに、その後もカンパがつづき、11月18日現在百六名の会員から十七万四千円のカンパが寄せられました。高教組は、中央集会や要請行動に多くの代表を送る事ができたと、お礼をい

## 草声老話

水没する三峽の景観をみたくて中国を訪ねた。起点となる重慶には名物の霧がついて降りたが、ここは酷暑の地でもある。現地のガイド嬢は「中国では40度をこえると働かなくていいですが、社会主義の政府は万端ですから気候まで変えます。役所が発表する気温は、どんな酷暑でも40度をこえませぬ」と痛烈である。

そんなことも承知の庶民は交通ルールなど意にも介さない。「ここは人優先でも、車優先でもなく、勇気優先です。」とガイド嬢はいう。近代的な高層ビルが統々と建つそばで、農村から来たみずばらしい人びとがたむろし、仕事があれば天秤棒で荷を担ぐ。この「棒ぼう族」は、時には観光客に群がり、時にはゆすりまでやる。「躍進」にひそむ残酷なまでの光と影である。長江(日本という揚子江)の舟旅は水墨画を行くように優雅だが、岸辺の村むらには彼らの故郷だ。舟積みまつ貯炭場がみえる。設備の貧しい石炭掘りは危ないが、貴重な収入源には代えられないという。障害者や子どもの物乞いにも出会う。社会主義とは貧しさと向き向かうことではなかったかと、革命の変節にいいようなない思いがつのる。やがてミカン畑も見える。「この農民の収入源も水没しますが、補償金は雀の涙です。」とガイドの青年がいう。彼は「ダム」の時代は「終った」という批判的世論も紹介し、「中国は発展途上国です。」と話を締めくくった。矛盾をひきずりながらも大きな可能性をもつという意味である。はて日本は、と考えざるを得ない。日本に留学したという青年はすかさず「レベルは違いますが、日本とも共通した問題ですね」という。三峽ダムは中国の光と影をさらに拮げそうである。しかし痛烈なガイド嬢や批判を忘れない青年に、中国の大きな可能性をみる思いがした。(千)



1998.1. Hanao Azeta

「秦泉寺日記」抄 坪井 幹之

十一月

「八日」高退協読書会。参加者三名。最初、一時間にわたって坪井がネパールの旅について報告。主題の図書「日本政治の課題」については、何を主張しているのかあいまい、国民の立場に立った論旨が欠落している、等々、批判的意見が続出。次回一月のテキストは未定、会員から募集することにする。

「十六日」山の会。十一月例会、阿波矢笠山に登る。参加者十二名。祖谷の落合峠に駐車。二時間少々で登頂。三回目の挑戦で頂上に立つ。剣次郎坂、三嶺を遠望。早めの昼食をすませて下山。途中開催中の「いやそばまつり」に立ち寄り買物。かずら橋付近は紅葉狩の観光客で混雑。山は秋から初冬へ衣替えの途上。「十八日」高退協事務局会議。

参議選(選挙区)

をめぐる情勢

上田栄蔵

「西岡さんで、新生日本を」の声を高まる

二一世紀をも展望した日本に大きな影響を与える参議選が目前に迫ってきました。自民党政治のゆきづまりがはつきりし、新しい政治をおこさないと日本がやぶってゆけない時代にきています。

自民党のご三家と言われたきた農漁業、業者、医者、の自民党支持基盤は崩れてきています。須崎釣漁協組合長の笹岡徳馬さんは「西岡さんは消費税などで筋を通し、社会党から除名されても公約を守った人じゃ。共産党は政党助成金(国民の税金)をもらってない。唯一の政党じゃ」と訴えて七百名もの西岡るり子後援会員をあつめています。また「農林業家のみなさんへのアッピール運動」で元高知県農協中央会長の川野忠顕氏や元高知園芸連会長の入交則邦氏など県下多くの農協などの有力幹部が西岡支持のアッピール呼び

まずはニュースの発送準備。西岡後援会の資料も同封。会議は望年会のとりくみを中心七項目の議題を談合。終了後、「竜馬茶屋」で恒例の慰労会。

「二十一日」「老泳会」全員顔が揃う。秋深まり、プールは閑散。

「二十八日」「老泳会」に参加。最近水の中ウォーキングを楽しむ女性を多く見かける。師走は間近か。

十一月

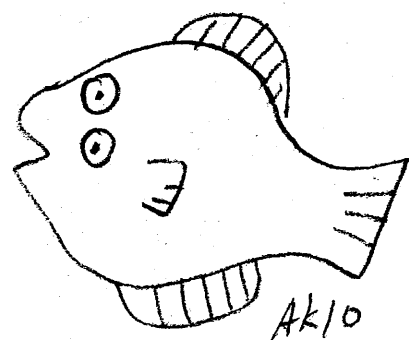
「五日」一時より高退協事務局会議。議題が少なく短時間で終わる。四時半より恒例の「高退協望年会」。冒頭にネパールの旅の報告と来年の参議選についてのお願いを開会の挨拶に。井垣高教組委員長、山原代議士から挨拶を受け、最長老の池上さんの音頭による乾杯で宴に入る。次ぎから次ぎの余興で盛り上がる。五十名近い参加者はこれまでの最高。来年も頑張りますよ。

かけ人に名前をつらねてくれています。そして政府による高知県への四七%米作減反の押しつけに「もう許せん」と怒りをつよめています。

中小業界でも、大型店舗の各地での進出がつづいています。安芸市では現在の小売店舗の一、五倍の敷地をとってスーパーが進出する計画があり、「これでは小売店は全滅ではないか」と心配されています。またコンビニを県下に新たに百六十軒増設の計画がダイエーなどの大手資本の手で進められています。自民党は大法法そのものを廃止し、大店舗の進出を野放しにしようとしています。

医療の分野でも重なる医療制度改革で県医師会の幹部も「治療にきてもらいたい方も来なくなり、病気が重たくなることも起こっています」と嘆いています。また日本を再び戦火にまきこむガイドラインへの怒りも高まっています。このような悪政への怒りのなかでかつてなく中広の無党派の人々が西岡支持を表明してくれています。前芸西村村長の岡村雅夫氏全園町村長会会長は「共産党の西岡支持は賢い選択だ。

「七日」山の会。十二月例会、「年忘れ会食つきハイキング」と銘打って、久礼野、山姥神社、土佐山村萬福、重倉、久礼野の周回コースを五時間半をかけて歩く。参加者十七名。昼食は萬福白山神社で湯を沸かし、インスタント食品を中心に会食。曇天の下今年の打ち上げ行事を終える。



森下では選挙ならん。西岡が強いじゃないか」と語り、元連合高知の委員長岡林重清氏は森下は人気が出て来ん。西岡が強いと思う、しかし相手は森下でなく自民党だから底力はある、なめたら負ける」と話しています。

他党派のうごきですが、森下氏の他に江本孟紀氏出馬の話があります。十二月二五日、西岡支援の参議選遊説第一声の演説会に来高した不破哲三日本共産党委員長は、記者会見で「江本氏は私のきいている限りでは最初は自民党の中央から立候補の話があり、最近では別の党からの話もあるようです。あつちの党、こつちの党をあてにするようでは無党派とは言えないように思えますね」と語っています。

不破氏は大演説会場で「歴史的にも動乱の時代に大きな気を吐いたのは高知だった」とし、幕末に先進性を発揮したこと、また婦人参政権を日本で初めて実現したのは高知だった。「このすばらしい伝統をもつ高知で、女性政治家の西岡さんと共にたたかえることをうれしく思います」と訴え、大きな拍手をうけました。

老眼

「どうだ、まいったか」と胸をはる著者

ヒマラヤに出發する直前、新聞の広告を見て、一冊の本を注文した。夢枕獺「神々の山嶺(いただき)上・下」(集英社)である。ネパールから帰国後読み初めて驚いた。小説の舞台はネパールである。首都カトマンドゥ、エヴェレスト街道、ナムチエ・パザールと追体験の連続、むさぼるように読んだ。

「山になぜ登るか、それがそこにあるからだ」という名言を残した英国の登山家マロリーは遭難の前にチヨモランマ(エヴェレスト)の頂を踏んでいたかどうか、世界登山史最大の謎を解きあかす彼の写真機をめぐる驚異が、この物語の横糸。そして、冬季単独無酸素のサガルマータ(エヴェレスト)最難関の南西壁の登攀をめざす天才的な登山家、羽生丈二の波瀾万丈の生涯が縦糸をなしている。「あとがき」によれば思いついてから書きあがるまで、二十年以上もかかっている。原稿用紙一千七百枚のこの力作を書き上げた著者は「もう、山の話は、二度と書けないだろう。これだけの山岳小説は、もう、おそらく出ないであろう。どうだ、まいったか。」と豪語している。多くの読者がこの小説には「まいった」に違いない。私もその一人である。(坪井)

会員の消息

(山本誠一さん)十月二十七日診察即入院されましたが一月月足らずで退院。養生食と運動で元のように元気になりました。

(北岡リツさん)一月ごろより体調を崩され半年ほど入院。いまはお家で療養中です。(木村信夫さん)入院をくりかえされていましたが現在はお家で安静にされています。皆さんのご回復をお祈りいたします。

おねがい

会員の病氣や動静その他知らせてやりたいことなどありましたら事務局員までご連絡ください。

### 高退協の10大ニュース

望年会では恒例の10大ニュースが次の通り発表されました。

- 1 夏期学習講座、50余名の参加で盛会  
高橋 正氏  
「自由民権と文学」  
中山英重氏
- 2 「高齢者の健康について」  
吉備路の歴史と文化を  
訪ねて研修旅行
- 3 山の会、イギリス、ヒ  
マラヤの山々を行く
- 4 老泳会、市営プールの  
無料化を実現
- 5 西岡るり子氏を推薦、  
参議選に満を持す
- 6 高教組の第二勳評闘争  
に支援カンパ
- 7 オンブズマンに役員を  
派遣、活動を支援
- 8 厚生省汚職を糾明、医  
療保険改悪を阻止する請願  
署名をすすめる
- 9 全退協全国交流集会（  
犬山市）に中岡氏、四国ブ  
ロック交流会に7名が参加
- 10 平和と民主主義、人権  
を守る行動
- ① 2・11「建国記念の日」  
に反対する県民集会
- ② 3・1卒業式「君が代」  
日の丸「強制反対ピラ配  
布
- ③ 5・1メーデー④ 5・  
3憲法50周年
- ⑤ 平民懇話会（6・21）
- ⑥ 8・15記念集会
- ⑦ 「地域からの教育改革  
を考える」（9・27）
- ⑧ 県高齢者大会（10・15）
- ⑨ 10・21統一行動

慶事 米寿：杉村早雄

成瀬孝一郎

浜田教義



### イエティ（雪男）のたたり

上岡 積

1 いざヒマラヤへ  
ヒマラヤときけば、「世  
界の屋根、雪と氷の世界、  
選ばれた登山家のみ足を踏  
み入れることのできる聖域」  
という印象が深い。そのヒ  
マラヤへ、「山の会」から  
誘われて行くことになりま  
した。  
同行されるメンバーは、

### 和氣アイアイの 研修旅行

11月11日・12日  
わが高退協の最大イベントの一つ、研修旅行も好天に恵まれ、最高に楽しいものになりました。

参加者は27名

（男性）西森実男・福富恒彦・山脇正照・上田速雄・竹本長生・窪田一郎・中岡鉄夫・竹島寛之・古味忠男・井上徳次・岡崎清恵・上田栄蔵・浜田昌俊・池上寿雄・野島辰平・窪田充治・西込 拡（17名）  
（女性）福富夫人・森岡恭子・横山民子・吉良方子・広田瑞恵・梅木美和子・加藤 菊・西田令子・島内香代子・清洲和江（10名）  
コースは岡山県吉備路と津山

こうもり塚古墳―備中国分寺―吉備津神社―吉備津彦神社―最上稲荷―湯郷温泉（泊）―津山城跡―衆楽園―「世界のガラス館」  
なんといつても圧巻は、ホテルでの懇親会でした。飲むほどに酔うほどに、つぎつぎに芸達者が隠し芸を披露して、時のたつのも忘れておりました。

私たちの旅行も、回を重ねる毎に、参加者が増え、ますます明るく和やかになりつつあることは御同慶の至りです。もう来年の旅が待たれます。

お世話くださった窪田（一）、竹島、清洲、西田の皆さん、どうも有難うございました。おかげで楽しい思い出ができました。（浜田）



日本国内の山は言うに及ばず、アルプス、カナディアンロッキー、ニュージールランドなどの海外登山の経験も豊富な方々ばかりで、「死ぬまで一度エベレストを見たい」という坪井先生の言葉のように、長年の夢を乗せた旅のようです。それに引きかえ飛び入りの私は、海外の山に登ったこともなければ、ろくな登山用具の持ち合わせもない初心者で、海外初体験がヒマラ

### 私の健康法

近況にかえて

山崎 博幸

退院して一カ月が過ぎました。未だにふらつきがあり、女房が杖交わりの、バタバタ生活の中、なんとか普通の生活が出来るようにと、ひがちで努力中です。人間にとって歩くと言うことは、老若男女の別、力強さ、速度等に関係なく、なんと素晴らしいことかと、つくづく思うこの頃です。

不健全な生活習慣のツケが廻ってきたものと、手遅れの反省をしながら、健康とは何かを考えています。WHOの健康の定義によれば、「たんに病気が、存在しない、というだけでなく、肉体的にも、精神的にも、社会的にも、申し分のない状態」を言うそうです。ある医師は、我流でと断つて、「食事がうまく、よく眠れ、通じが整い、身体に苦痛がなく、働く気分がわき、楽しく活動が出来ること」と言っています。

健康を守るためには、自然

ヤ？何を血迷ったかと言わなくても返す言葉がありません。トレッキングを辞書で引けば「骨の折れる長い旅」とあり、地元住民の生活道を歩き、遠くにある山々を眺めるだけの旅なのだと思ってしまう。手には解釈して何とかなるだろうと呑気なものです。ところが、一口にヒマラヤといってもその山脈には、深い渓谷が刻み込まれており、幾つかの山群に分かれていて、多くのトレッキングコースがあるという。私たちはアンナプルナーI（8091）を主峰とするアンナプルナ山群とエベレスト（チョモランマ）、ロイツエなど、名だたる山々があるクーンブ山群を巡る15日の日程で旅立つことになりました。リーダーの坪井先生他9名と添乗員1、シエルバ3、ポーター4の17人のパーティです。

と、社会と、人間との関わり合いによって、健康を保持する以外にない事になります。こりやおおごと。原則的な事は、これでおきます。以下、気のつくままに、二、三のことを述べます。

家がいかにも、病人や、老人に無配慮の建物であるかを痛感しました。過日、在宅介護支援センターのアドバイスを受けて、風呂場、洗面所、トイレに、補助を受けて介護機器を取り付ける手続きをしてみらいました。

味覚の変化が著しく、アルコール類は口にする気がしない。そのまま止めればとの外野からの声も多いが、寂しいので、酒と上手につきあうためのトレーニングを始めます。昔、市川一郎さんより寄贈を受けた「酒のはなし」を熟読しています。味は甘み一色、饅頭で一献と、絵にならないことが起こるかも知れません。医師から脳の運動を強く勧められ、どんなことが効果的かわかりませんが、せめて読書のテキストは読み、考えようと思っています。

「まだ明けきらぬはるか彼方に白銀の山々がそびえ立ち、日の出とともに刻々と色を変え様を変えて展開する様子は圧巻である。まず頂上から茜色に染まり、刻の移ろいにつれて白銀に輝き、日がさすとともに黄金に、そして雪煙が斜面を走る。筋雲がよぎり、山の白さを際立たせる。マチャプチャレ（6993）、アンナプルナサウス（7219）ダウラギリ（8167）などだ。高い山から順に日がさしてくる。マチャプチャレ（現地語で魚の尾という意味）はマッターホルンと瓜二つだというが悲しいかな実物にお目にかかったことがない、写真と比べる愚は避けよう。別の方角から見れば峰は2つに分かれて魚の尾になる。距離が近いので左右に他の山を従え、彼が主峰面をしている。旅が深まるにつれてさらにすばらしい山々の姿に接するので最初の感動は大きく、この風景を見たことで今回の旅行の目的は達したと思っただけでした。つづく

### 高教組だより

### いま、学校で

(その二)



かつて「校舎が見えてくるとムカついて登校がいやになる」とこぼした生徒たち、教師も同じ気持ちで出勤するといわれた市内A大規模校、最近はどうだろうか。生徒数はかつてのベビーブームの頃より少しは減少したが、各学年10クラス、2、3年前で赴任し、次々にたらい回しされ、学校や生徒の現状に立ってどう学校や教育をかえるか、今当校の教職員が一致して取り組むべき課題も理念も何もない、百名の教職員へのリサーチは示されず、その日一日を過ごし任を「大過なく終える」ことしか考えない状態が続いている。これは、骨格人事を司る県教委に根本の責任がある。20年ほど前、山陰の田舎高校で一高校長としてその地域の文化と人づくりに職を捧げて終えた手記(岩波新書)を読んだがすがすがしく感じた。序列、格付けされた高校、それにスライドする校長観をもつ限り高知ではこのような、世界と日本との文化に通じる地域に根の生えた管理職は作れないだろうか。



向にある。でも、当校は特定セクトの下相談のなかで主要ポストの配役が決定され、若い教師が自主的な生徒・生徒会を育てようと生徒会担当を希望しても他の部署を無理矢理押しつけている。かつての「荒れ」を恐れてか、管理・統制の生徒部でがっちり固めその指導方針を職員会や学年会に計ることもなくクラス主任に押しつけてくるそのために職員会議はしばしば流会にもなる。「奇らしむべし、知らしむべからず」教育現代版である。

郡部校から転動してきた50代の組合員男性B先生、前任校では「主任」クラスでここ十数年クラス担任を保持したことがなかったが、2年の普通科一番の問題クラスを引き受けた。学年10クラスで小学校の2クラスは入試得点も高く、進路も明確で授業態度もよい。文・理系のクラスもなんとか進路という目的でもっている。問題は一般クラス。進路・勉学のめあてがなく、せめて専門学校くらいは進学したいという淡い望みは持つが進路は明確でない。学習習慣は全くない、生活習慣は3、4歳保育園児並みで脱いだ靴、教科書、ノート、運動着の管理が出来ない。非行のデパートのように何が起こつてもおかしくない日々。毎日「時間と空間が通じない」生徒たちとちやかくれ格闘している、と語ってくれた。

これくらいの大規模校になれば、学校のなかにも一つの学校を作るくらいの決意でこの生徒たちの入学から卒業まで責任を負う学年教職員集団を作り、生徒の現状をリアルに認識し、そこから一つ一つ実践を積み重ねれば学校は変わるが、現状は学年団の持ち上がり、引き継ぎはなく、3月に解散し、やれやれの状態が続いている。

が、少数だが現状改革をめざして授業やクラス運営に取組んでいる組合員の先生方の姿も見えてきた。



(つづく) 編目

### 相撲三知識 二十四

林 勤



#### A 力士の給与改訂

力士、親方等の定昇昇給は、近年は毎年一月に一律六%アップが定着していたが、平成十年一月から適用される改訂内容は相当な様変わりである。

十一月九州場所現在の親方は一〇五人であるが、その中の理事十名、監事三名、役員待遇五名は昇給見送り、他の親方は三%、力士は十%アップである(新給料額は別表)

褒賞金倍率も十二年ぶりに、二千五百倍から四千倍に大幅に引き上げられた。褒賞金とは、勝ち越し(八勝以上をすること)、金星(前頭の力士が横綱に勝つこと)、優勝などに対し、給料の他に支給される加算金で、本場所毎の年六回、現役中ずつと十両以上の力士に支給される。

具体的には、○勝ち越し一個が五十銭×二千五百倍が四千倍となり二千円になる。○金星一個が十円×二千五百倍が四千倍となり四万円になる。○幕内優勝は三十円(全勝優勝は五十円)の四万倍で十二万円(全勝は二十万円)になる。

貴乃花は九月秋場所現在までの勝ち越し、金星、優勝、横綱の地位に付くもの、等の褒賞金合計は八七〇円で、その二千五百倍二一七万五千円であったが、改訂で三万八千円になる。これが本場所毎の年六回支給される。今回の改訂について境川理事長は「昇給ストップの企業もあるような現在、親方には励みになればと思

◆力士給与改正◆

改正給与	260万6000
216万9000	156万4000
120万9000	95万7000
15万0000	10万0000
8万0000	7万0000

◆力士給与改正◆

区横大三幕十幕三序	目下目段	7万0000
区横大三幕十幕三序	目下目段	7万0000

%アップにした」と言っている。力士はこの厚い配慮に依って稽古に励み、フアンを引き付ける熱戦、好勝負を多く見せてもらいたい。なお優勝や三賞の賞金、養老金(力士の退職金)等は改訂されていない。

註1、力士には別表の他に、小結以上に支給される本場所手当、十両以上に支給される補助費、横綱の綱代、等があるが割愛した。

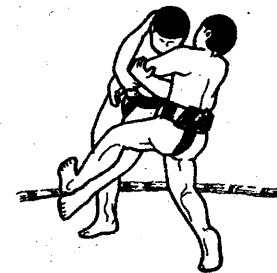
2、別表の幕下以下の分は月給ではなくて、年六回の本場所毎に支給される場所手当である。

3、紙面の都合で詳しく述べられないので、「こうたいきよう、一九九六、第十七号の相撲よもやま話」力士の収入」と対比して読んでいただければ、よくわかると思います。

(新給料表)

B、安芸乃島とちよんがけ

ちよんがけとはカットのよように、自分の足の内側で相手の踵を内側から刈るようにして体重をかけて倒す技である。柔道の小内刈りと同じような決まり技である。



平成六年九月場所十一日目に安芸乃島はちよんがけで寺尾に勝ったが、その後三年間見られなかったこの珍しいちよんがけで、平成九年九州場所九日目に安芸乃島は旭豊に破れた。

一寸面白い巡り合わせである。さて、この次にちよんがけがお目見得するのは何時であろうか。